

I 両県連携における課題等

1 これまでの成果と主な課題

(1) 広域環境・生活圏の形成

【成果】

両県はじめ東北6県等の行政機関が相互に連携・協力する様々な仕組みを構築し、安全・安心な質の高い生活の実現に向けた取組みを着実に推進

【課題】

- ① 新たな分野での連携（感染症対策や東北の暮らし方・地域の特性を活かした人づくりなど）
- ② 多様な主体による連携（市町村・NPO・民間等多様な主体も含めた連携）

(2) 広域経済圏の形成

【成果】

産学官金連携により、「食」等両県の強みを活かした競争力ある分野の市場開拓、「自動車」等の成長期待分野の産業集積に向けた取組みを重点的に展開

【課題】

- ① 「自動車」等の成長期待分野の産業集積など、これまでの取組みの加速化
- ② 新たな分野への展開（森林ノミクスや6次産業化の推進、ICTの活用など）
- ③ 新しい働き方や人材育成・確保（建設業等における労働環境の改善など）

(3) 広域交流圏の形成

【成果】

両県の特長・資源を活かした交流人口の拡大や県際間の重層的なネットワーク基盤の強化に向けた取組みを積極的に展開

【課題】

- ① インバウンドの拡大を見据えた戦略的な誘客（両県空港の連携など）
- ② 多重な交流基盤の整備促進（石巻新庄道路の新規事業化等の横軸道路の整備など）

2 両県を取り巻く社会経済情勢の変化

(1) 多発する自然災害

⇒ 災害発生時の相互支援を円滑に行うため、平時からの人的・物的な備えの充実

(2) 人口減少の進行による地域活力の低下

⇒ 地方創生の実現、人生100年時代への対応

(3) グローバリゼーションの進展やICTの飛躍的な進歩

⇒ アジアダイナミズムの取込みと地域資源を活かしたイノベーションの展開

(4) 東京オリ・パラをはじめとした大交流時代の到来

⇒ インバウンドをはじめとした交流人口の拡大と交通ネットワークの強化（リダンダンシー機能も併せ確保）

II 新たな連携の芽や可能性

1 震災復興等の経験や教訓を踏まえた両県の蓄積

- 宮城県には地震や津波等の防災・復興に関する新たな知識・技術・ノウハウが、山形県には広域的な救援活動を通じたノウハウ等が、産学官や地域等に蓄積
- 復興への人的支援を通じた両県間の“絆”の深まり、交流拡大の動き

2 魅力ある多彩な資源等

- 両県の気候、地形、風土、食、文化、産業など多彩な資源や、松尾芭蕉の「奥の細道」の足跡や伊達家のゆかりなど、歴史的なつながり
- 学術、コンベンション機能、高度な都市機能等の集積

3 新たな価値を創造する産業シーズ

- 産学官金連携による世界最先端の研究開発拠点の形成に向けた新たな動き（東北放射光、ILC、鶴岡イオンパーク等）
- 国産自動車メーカーの生産拠点形成による産業集積
- 復興期における先端的なICT等の創出

4 陸・海・空の重層的な交通ネットワーク活用の可能性の高まり

- 縦横軸となる格子状骨格道路の整備進捗（南東北3県の高速道環状化）
- 仙台空港の民営化、LCCをはじめとした国内線・国際線の拡充
- 東北中央部に山形空港、日本海側に庄内空港がバランス良く配置

III 新連携構想の基本的な考え方

1 目指す将来像（目標）

歴史や復興の深い“絆”をもとに、
交流・イノベーションにより、未来を共に創る「宮城・山形」

2 施策の柱

「I 両県連携における課題等」や「II 新たな連携の芽や可能性」などを踏まえ、将来像の実現に向け、「施策の4つの柱」を設定。

【施策の4つの柱】

〔1〕 相互の助け合いのもと、安全・安心で、多様な人材が活躍する「地域・暮らし」の実現

〔2〕 新たな発展の原動力となるインバウンドをはじめとした「観光・交流」の展開

〔3〕 イノベーションの創出や成長期待産業の集積による活力ある「産業・経済」の振興

〔4〕 国内外との大交流を進め、リダンダンシー機能を担う「交通基盤」の形成

IV 推進体制

宮城・山形未来創造会議

【構成団体】 宮城県、山形県、仙台市、山形市、宮城県商工会議所連合会、山形県商工会議所連合会、（一社）東北経済連合会

V 主要な施策の展開方向

〔1〕 相互の助け合いのもと、安全・安心で、多様な人材が活躍する「地域・暮らし」の実現

〔1〕 災害に強い防災先進地域の形成 〔重点〕

- ① 東日本大震災の経験を活かした防災教育の普及・拡大
 - ・ 両県の児童生徒の発達段階に応じた防災教育に関する情報共有による教育内容の充実
- ② 多様な主体の連携による防災協力の充実強化
 - ・ 災害時の情報共有や支援物資・医療支援の中継基地となる両県防災関連拠点施設の相互活用等の推進
 - ・ 総合防災訓練をはじめ国民保護訓練、原子力防災訓練、林野火災防ぎょ訓練等各種訓練への相互参加など、災害に備えた協力的体制の充実
 - ・ 両県をはじめ関係市町、火山専門家、国機関等による蔵王山の火山防災対策の推進
 - ・ 広域的かつ機動的に活動できる企業やNPO等との災害時応援活動の充実強化
- ③ 事業者の防災・減災対策の強化
 - ・ 事業者の災害時等における事業継続のための計画づくりを促す両県共同の取組み
- ④ 感染症に対応した広域連携の充実強化
 - ・ 高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病発生時における相互支援体制の事前構築
 - ・ 感染症の広域的な発生に備えた相互支援体制の確保

〔2〕 災害に強く持続可能な、自然と共生する暮らしの実現

- ① 地域特性に応じた再生可能エネルギーや水素エネルギーの導入拡大
 - ・ 両県で循環利用が進んでいるバイオマスエネルギーの更なる導入促進
 - ・ セミナー等の共同開催による水素エネルギーの自治体や企業、家庭などへの普及拡大
- ② 多様な主体の連携による省エネルギー対策の推進
 - ・ 住宅、家電、自動車等の業界と連携した省エネルギー活動の拡大
- ③ 両県の豊かな自然環境と良好な生活環境の保全
 - ・ 両県が誇る海や川、山などの自然環境の保全活動や魅力の発信
 - ・ 近隣県連携による、廃棄物不法投棄に関する情報の共有や未然防止対策等の共同実施

〔3〕 震災復興で活躍した若者をはじめ、誰もが活躍できる地域の実現

- ① 次代を担う若者や女性の活躍推進
 - ・ 若者による地域を元気にする活動に対する支援
 - ・ 起業や地域活動など多様な分野での女性の活躍推進
- ② 高等教育機関を活用した地方創生を担う人材の育成
 - ・ 大学が連携したコンソーシアム等の取組みを踏まえた、あらゆる年代での多様な知識やスキル等の修得機会の拡大
- ③ 宮城・山形の新たなライフスタイルの発信などによる移住・交流の促進
 - ・ 仕事や恵まれた住環境・食生活、趣味や地域活動などをまるごと楽しむ暮らしの発信
 - ・ スポーツ・文化、食・祭り、観光などのイベントの共同開催や相互の情報発信などによる両県民の交流促進

〔3〕 イノベーションの創出や成長期待産業の集積による活力ある「産業・経済」の振興

〔1〕 世界最先端技術の研究開発拠点の形成と成長期待産業[※]の集積 〔重点〕

※ 両県での成長期待産業：航空機関連産業、医療・健康機器産業、食品製造業、クリーンエネルギー等環境関連産業等

- ① 世界最先端の研究開発拠点の形成による関連企業の誘致と地元企業の参入促進
 - ・ 東北放射光、国際エアロイドの加速器技術、東北大学国際集積マイクロエレクトロニクス研究開発センターの集積マイクロエレクトロニクス技術、慶應義塾大学先端生命科学研究所のバイオ技術、山形大学工学部の有機マイクロエレクトロニクス技術等を核とした研究開発拠点の形成
- ② 自動車関連産業の集積促進と地場企業の参入の加速化
 - ・ 東北各県連携による自動車関連産業の集積促進
 - ・ 両県をはじめ東北各県の自動車産業振興協議会の連携による、次世代自動車の蓄電・モーター等に係る要素技術開発も視野に入れた研究活動の促進
- ③ 成長が期待される産業の集積と地場企業の参入促進
 - ・ 両県内の企業における技術開発の支援や商談会の開催等、成長期待産業での事業化の促進

〔2〕 イノベーションの創出等による産業の活性化 〔重点〕

- ① ICT等の先進的な技術を活用した第1次産業から第3次産業にわたる幅広い産業振興
 - ・ 新たな農業経営モデル等をはじめとした農林水産業や製造業など様々な産業分野における先進的なICT等の普及・拡大
 - ・ 産学官による建設現場等におけるICT活用による生産性向上や労働環境の改善の推進
- ② 地域の豊かな森林資源を活用した緑の循環システム等による林業振興
 - ・ 山形県林工連携コンソーシアムの取組みをもとに両県での林工連携の取組みの拡大展開
 - ・ 県産木材の流通拡大や公共及び民間施設における木造化・木質化の推進
 - ・ 林業技術者が社会的に評価される新たな国家資格制度の創設提案

〔3〕 起業家の創出及び産業人材の育成等

- ① 起業家の育成と交流の拡大
 - ・ 社会的起業やベンチャー等の創業支援プログラムへの相互参加による起業家創出の加速
 - ・ 新たなビジネスや人脈づくりに向けた起業家等の交流機会の拡大
- ② 両県産業が求める多様な人材の育成・確保
 - ・ ものづくりや電子情報、土木技術などに関する人材の育成事業への相互参加
- ③ 多様な働き方の推進
 - ・ テレワークの普及・拡大

〔2〕 新たな発展の原動力となるインバウンドをはじめとした「観光・交流」の展開

〔1〕 戦略的なインバウンド推進による交流人口の拡大 〔重点〕

- ① 対象国・地域の市場特性や嗜好に応じた広域観光ルートの形成
 - ・ 世界に誇る蔵王等をはじめとした「雪」を基本的な資源とするなど、食文化や温泉、歴史・精神文化、自然やスポーツ、健康や医療、伝統産業等の魅力ある観光素材を組み合わせた、対象国・地域に応じた多様な広域観光ルートの形成
 - ・ 東北の空の玄関口である「仙台空港」や、国際的なハブ空港である羽田空港に直結する「山形空港・庄内空港」、両県の主要駅等を活用した広域周遊ルート等の形成
- ② 対象国等の旅行事情に沿った総合的な誘客の展開
 - ・ ビッグデータなどICTを活用した観光流動の調査・分析によるマーケティングの推進
 - ・ テーマ・ストーリー性の発信に最適なWeb媒体や雑誌、メディア等を活用した情報発信力の強化
 - ・ 対象国等の旅行者や両県の観光関係団体等との連携による、各国の特性に応じた旅行商品造成と販売促進
 - ・ コンベンション、教育旅行等の積極的な誘致強化
 - ・ 仙台空港への国際定期便や、両県港への外航クルーズ船の誘致促進
- ③ 外国人を迎える受入態勢の整備と地域を挙げた観光機能の強化
 - ・ 外国人観光客が快適な情報受発信を行うためのフリーWi-Fiエリアの整備
 - ・ 仙台空港や山形空港・庄内空港、両県主要駅等を起点とする二次交通の充実
 - ・ 宮城県、山形県、仙台国際空港(株)が一体となったインバウンド推進の取組みの強化
 - ・ 県際間での連携による広域連携DMOの東北観光推進機構や地域連携DMOなど、広域観光推進団体等と連携した着地型観光の展開強化

〔2〕 多彩な資源と機能を活用した競争力の高い観光地域づくり

- ① 多彩な資源を活かした観光の高付加価値化と誘客の強化
 - ・ 両県での多彩な資源となる、伝統工芸等のものづくりや食文化、農業、酒蔵・ワイナリー、歴史・精神文化、健康・医療、スポーツなどを組み合わせた新たな視点によるツアー造成の促進
 - ・ アクティブシニアや女性など誘客対象を明確化し、テーマ性やストーリー性を踏まえた、情報発信とプロモーションの展開
 - ・ 高速道路網の回遊性の高まりを活かした首都圏・近隣県等への情報発信の強化
- ② 旅行者が快適に回遊できる環境の整備
 - ・ 自立した観光地経営を目指すDMOなどによる、広域、地域単位での重層的な観光地域づくりの推進
 - ・ 観光産業を牽引する、豊かな企画力や総合調整力等を有する中核的な人材の育成

〔3〕 戦略的な海外市場開拓による輸出の拡大

- ① 戦略的な海外市場の開拓
 - ・ 両県海外事務所等の現地調査機能等を活かした、海外市場の情報収集、マーケティング調査、県産品を活かした商品づくりや情報発信
 - ・ 民間企業等の輸出支援団体等との連携も視野に入れた、海外市場の開拓

〔4〕 国内外との大交流を進め、リダンダンシー機能を担う「交通基盤」の形成

〔1〕 多様で重層的な環状交通ネットワークの形成促進等 〔重点〕

- ① 格子状骨格道路ネットワークの整備促進等
 - ・ 太平洋と日本海を結ぶ(石巻～酒田間)地域高規格道路の整備促進
 - ・ 国道48号、国道108号などの横軸国道ネットワークの機能強化
 - ・ 三陸縦貫自動車道、東北中央自動車道などの高規格幹線道路の整備促進
 - ・ 仙台空港と東北縦貫自動車道のアクセス向上に向けた道路の整備促進
 - ・ 両県をはじめ東北を結ぶ高速バスの路線拡大
- ② 両県空港等連携によるネットワークの強化
 - ・ 航空路線や観光情報の相互発信など、広域的な空港利用の促進
 - ・ 両県の空港と主要都市等を結ぶ二次交通等アクセス機能の向上
- ③ 鉄道ネットワークの強化
 - ・ 太平洋側と日本海側を縦貫し、東北を結ぶ新幹線網の形成に向けた奥羽・羽越新幹線の整備促進
 - ・ 両県を結ぶ仙山線の利活用促進と機能強化及び日本海と太平洋を結ぶ陸羽東・西線の利活用促進に向けた共同の取組み
 - ・ 仙台空港アクセス鉄道の利活用促進と仙山線の相互乗入れの実現に向けた共同の取組み

〔2〕 東北のゲートウェイ機能を担う両県の港湾、空港の利便性の向上と機能拡充

- ① 両県港湾の機能強化及び利活用の促進
 - ・ 日本海側と太平洋側の2面を活用した物流効率化に向けた取組みの検討
 - ・ 災害発生時における代替機能の充実・強化
- ② 両県航空ネットワークの拡大
 - ・ 両県空港双方の航空路線拡充のための方策検討等
 - ・ 航空需要開拓のためのプロモーションの展開